

## 外国語（中学校）

### ○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

理解の領域	聞くこと	発話の全てを聞き取らせたり、特定の部分にとらわれたりするのではなく、目的や場面、状況等を踏まえて「必要な情報」「概要」「要点」を聞き取らせる。また、聞いたことに対して応じたり、考えを表現したりするなど、自然なコミュニケーションを意識した活動を行う。
	読むこと	未知語の意味や発音の指導、文法事項の説明に過度に時間を取ることなく、伝えられる意味内容に留意した言語活動を行う。「自分が必要な情報」「概要」「要点」等、目的に応じた読み取り方を指導する。書かれた内容を表現するための音読は、意味内容にふさわしく音声化する。
表現の領域	話すこと	やり取りは一定の型にこだわらず、即興的なやり取りの機会を十分に確保する。身近な話題や既習事項等を活用し、伝え合う活動を継続的に行うことで、生徒が伝えたいことを即興で表現できる範囲を徐々に広げていく。発表では、聞き手に配慮した分かりやすい表現になるよう指導を工夫する。
	書くこと	何のために、誰に対して書くのかという点を意識させるため、活動の目標や流れを明確にする。音声言語以上に正確さが重視されるため、目的に応じて、文構造や文法事項、構成等の指導を行うとともに、個に応じた手立てと学習集団全体への説明を織り交ぜ、徐々に正確に書けるよう指導する。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■学習意欲を高め、主体性を引き出す単元構成の工夫</p> <p>生徒の「伝えたい」「できるようになりたい」という学習意欲を高める工夫をする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が適度な困難さを感じるような学習課題や言語活動を設定。</li> <li>・日本語と英語で表現が大きく異なる例を題材に設定。</li> <li>・複数の生徒に共通して見られる誤答を分析し、それらに関する言語材料に焦点を当てた言語活動を設定。</li> </ul>	<p>■問題解決の過程を組み込んだ言語活動の工夫</p> <p>生徒が問題を焦点化し、協働して解決に向かうことができるように言語活動を工夫する。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がつまづきを共有し、問題解決に向けてグループや全体で話し合う場面の設定。</li> <li>・生徒の気付きを促し、話し合いを活性化させるための問いを精選。</li> <li>・問題解決のヒントとなる既習の知識やスキルをモデルや資料を通して提示。</li> </ul>	<p>■単元前後の変容を称賛</p> <p>生徒一人一人について、単元を通して何ができるようになったのかを見取る。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAN-DO リストの目標に照らした振り返りの実施。</li> <li>・生徒の発話を録音・録画するなどして、個の変容を単元前・中・末で見取り、具体的に称賛。</li> <li>・生徒が自身の英語力の伸びを実感できるよう、客観的指標やデータを基にしたフィードバック。</li> </ul>

#### ICTの活用について

中学校外国語科の指導において、ICT活用の利点と活用方法について紹介します。

#### ○ 言語活動の更なる充実

- ・英語話者との「本物のコミュニケーション」の機会の提供
- ・他校生徒や他学級の生徒等、多様な他者とのコミュニケーションの機会の提供
- ・電子メールやSNSを用いた実践的なやり取りの実現
- ・「聞くこと」や「読むこと」の言語活動におけるオーセンティックな教材の活用

#### ○ 興味・関心の喚起と指導・評価の効率化

- ・生徒にとって身近と思われる SNS 上でのコメントによるやり取りを授業に導入することによる学習意欲の喚起
- ・言語活動を行うために必要な言語材料について理解・練習することを、自分のペースで進めるための教材として活用
- ・プレゼンテーション機能等の活用による板書や説明時間の短縮と、それによる言語活動が中心となった授業の促進
- ・パフォーマンステスト等評価への活用

【参考】文部科学省HP「StudX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)

